

税を支払う、幸せをもらう。

長万部町立長万部中学校3年 篠田 涼帆

いつもと同じ時間に、いつもと同じ通学路を自転車で走っていた。いつもの曲がり角を曲がって、私は驚いた。

「見て！真っ白！きれい！」

薄くなっていた横断歩道の線が、濃く、はっきりと変わっていた。私は思わず一緒に通学していた姉に話しかけ、「本当だ！」と笑いあった。朝の小さな幸せだった。

私の町は、今いたところで道路の整備が行われている。今日はこの道路がツルツルになっている、今日はここが、と話しながら、真新しい道路の上に自転車を走らせるのが、最近の私の楽しみだ。

この作文を書くにあたって、私はそんなことを思い出した。今まではぼんやりとしか理解していなかった、「税金は国民の生活に役立っている」という言葉の意味を実感した。

この町の、あの横断歩道だけでなく、今も日本の至る所で道路の整備がされて、私のように嬉しくなっている人がいる。この国が、小さな幸せで溢れている。

そこで私は、この国の至る所で、毎日このような工事を行うのに、どれくらいの税金がかかるのだろうと気になったので、調べてみた。

すると、令和五年度の国の税金の総額である、約五十七兆円のうち、工事などの公共事業関係費は、五パーセントである、六兆円もが使われていた。やはり規模が大きい。また、所得税、法人税、消費税が、総額のうちの八十パーセントを占めていると書かれていた。

私はまだ子供なので、所得税も法人税も、ぼんやりとしか分からないし、消費税くらいしか支払ったことはない。それでも微力ながら、私の支払った税が、誰かの小さな幸せになっている。そして、私自身の幸せにもなっている。

アイスクリームを買って、税を支払って、幸せをもらう。可愛いTシャツを買って、税を支払って、幸せをもらう。微力ながら、幸せの循環に、貢献している。

そう考えて私は今とても嬉しい気持ちになったが、税を支払うことをあまりよく思わない人もいる。私の周りにもいる。日常の幸せには、税が関わっていることを、知ってほしい。そして、感謝を伝えたい。

一億二四八八万人の皆さん、私の朝の小さな幸せをありがとう。

ゴミのない、横断歩道も白線も見やすい、安全な通学路をありがとう。

見慣れない教室で、新しいピカピカの教科書に、名前ペンで書き慣れない学年を書く私のウキウキをありがとう。

友達と勉強ができる図書館、その後にはしゃいで笑い合える公園をありがとう。

税を支払う、安心をもらう。

税を支払う、幸せをもらう。